



日本銀行のレポートから

日本銀行は、1月、4月、7月、10月の政策委員会・金融政策決定会合において、先行きの経済・物価見通しや上振れ・下振れ要因を詳しく点検し、そのもとでの金融政策運営の考え方を整理した「経済・物価情勢の展望」（展望レポート）を決定し、公表しています。また、展望レポートの内容を、より幅広い読者に伝えるための取り組みとして、そのポイントをイラストとともに簡潔に整理した資料（ハイライト）を公表しています。本稿では、2024年10月の展望レポート（基本的見解は10月31日、背景説明を含む全文は11月1日公表）のハイライトをご紹介します。

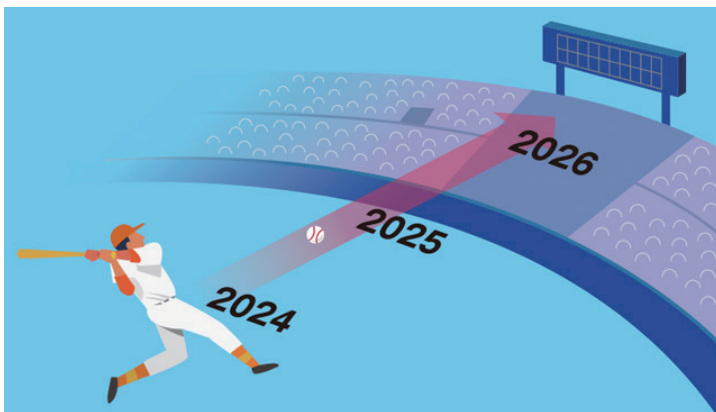
*全文は、日本銀行ホームページに掲載されていますので、ご関心のある方は、ぜひそちらもご参照ください。

<https://www.boj.or.jp/mopo/outlook/index.htm>



「経済・物価情勢の展望」（展望レポート・ハイライト）

—— 2024年10月 ——



日本経済は成長を続ける
日本経済は、海外経済が緩やかな成長を続けるもとで、金融面からの後押しなどもあつて、潜在成長率を上回る成長を続けます。

**物価は来年度以降
二％程度で推移する**
消費者物価の前年比は、今年度に二％台半ばとなったあと、来年度・再来年度は概ね二％程度で推移します。この間、一時的な変動を取り除いた消費者物価の基調的な上昇率は、徐々に高まったあと、二％の「物価安定の目標」と概ね整合的な水準で推移します。





日本経済・物価を巡る 不確実性は高い

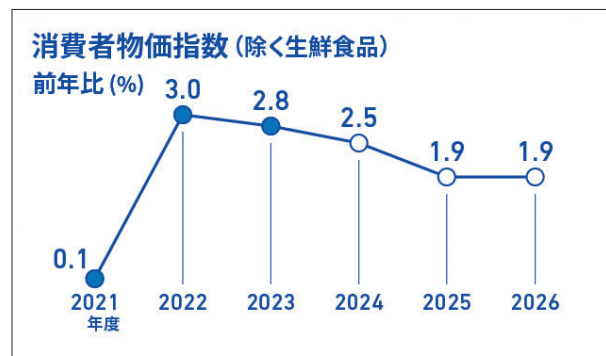
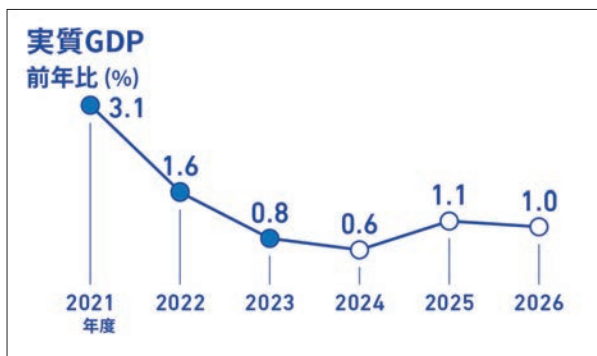
海外の経済・物価動向、資源価格の動向、企業の賃金・価格設定行動など、日本経済・物価を巡る不確実性は引き続き高い状況です。また、金融・為替市場の動向と日本経済・物価への影響にも十分注意を払う必要があります。

2%目標のもとで 金融政策を運営していく

金融政策運営については、先行きの経済・物価・金融情勢次第であるが、経済・物価の見通しが実現していくとすれば、それに応じて、引き続き政策金利を引き上げ、金融緩和の度合いを調整していくことになると考えています。



政策委員の経済・物価見通し



(注) ●は実績値、○は見通しです。